

# 3月号

# School Aid Japan

スクール・エイド・ジャパン



## Dream通信

2011. 03. No.36

### 子どもの心の育成 ～立派な大人になるために～



ノートをもって、『ありがとう』



保母さんが名前を書いて渡します



自分の持ち物は自分で管理します

皆さんこんにちは。ここカンボジアは乾季に突入し、毎日30度を超える暑さとなっています。

今回のDream通信では、子どもたちを立派な大人に育成するために、園で行っている様々な取り組みについてお伝えします。

#### 物を大切に

園で使うものは、全て里親様、ご支援者様からのご寄付で成り立っています。そのことを、いつも子どもたちに伝え続け、物を大切に使う、ということを常に意識させています。

子どもたちが学校で使うノート、鉛筆等の文房具から、服や下着、さらにご飯を食べるお皿など、子どもたちがいつも使う物の管理は、子どもたち自身で行っています。さらに、自分のもの、とすぐに分かるように、全ての持ち物には子どもの名前が書かれています。新しく物をもらう時には、保母さんが、子どもたちの名前を書いてから、渡すようにしています。

例えば、ノートや鉛筆のような文房具は、使い切ってから交換する、という決まりがあります。文房具にも、それぞれ名前がついていますので、交換する際には、名前を確認してから交換します。また、子ども同士の貸し借りも禁止しています。使い切る前に無くしてしまった場合には、1つにつき、代表理事との約束文を10回書きます。

服は穴が空いたとしても、自分たちで縫って、また着る様に指導しています。自分で出来ない子どもは、保母さんに頼みますが、保母さんが縫っているところを見て、勉強し、次回からは自分で縫うようにします。

里親様、そして支援者の皆様のご寄付によって、子どもたちは幸せな生活が出来ているということを改めて確認し、ルールや規則任せではなく、自ら進んで物を大切に扱う心を育てていってほしいと思います。



自分達でできることは自分達で

## 自転車修理

園の子どもたち、小学1～3年生までは、歩いて15分ほどの小学校に通っています。しかし、小学4年生になると、国道を越えた、自転車で約20分のところにある小学校に通うことになります。そのため、子ども一人ひとりに、自転車を与え、それぞれの自転車に名前や番号を書いて、自分たちで管理しています。

園の目の前にある道路は、まだ整備されておらず、赤土のガタガタ道です。そこを毎日走っているため、子どもたちの自転車は、ネジが外れてどこかにいってしまったり、カバンを入れるかごがへこんでしまったり、チェーンが緩んで外れてしまったり、と色々な箇所が壊れてしまいます。

しかしながら、自転車が壊れても、まずは自分で修理します。自分のものは自分で管理することで、ものを大切に扱う心が生まれます。もし自分で修理できなければ、大きい子どもや、職員に頼んで修理してもらいます。その時には必ず横について、次に壊れたときには自分で修理出来るように、勉強しています。

もし自転車修理の知識があれば、将来自分の子どもの自転車が壊れても、修理に出すことなく、自分で直すことが出来ます。そして、自分の子どもに、物を大切にすることの大切さを教えることが出来ます。そしてさらに、もし仕事を失ってしまった時に、自転車屋さんで働くつてになるかもしれません。自転車の修理を通して、子どもたちには、物を大切に扱うこと、そして自転車修理の技術を会得してもらいたいと考えています。

## 髪を切ってさっぱり

2月の終わりには、日本から美容師の皆様が、園に遊びに来てくださいました。その際に、子どもたち、そして職員までも髪を切っていただき、皆さっぱりとした髪型に変わりました。

普段は、2ヶ月に一回、地元の理容師さんを園に呼び、髪を切ってもらいますが、今回は、日本からおしゃれな美容師さんたちが来て、髪を切ってくれる！ということで、皆とても心待ちにしていました。

普段は、髪型も全て、理容師さんが決めてしまうのですが、今回は、日本のヘアースタイル雑誌を皆で見ながら、これがいい、あれがいい、と口々に言い合い、職員と相談して決めました。自分で決めた髪型にしてくださいと頼む姿はとても嬉しそう、雑誌の写真に写っている、モデルさんのようなんだ！と目をキラキラさせていました。

いつもは髪を切りたがらない女の子たちも、おしゃれな美容師さんになりたい！と自分からお願いしていました。

2日間で、総勢93名のヘアースタイルをしてくださった10名の美容師の皆様、本当にありがとうございました！



警備員に修理を教わります



どれが一番かっこいい？



きれいになりました！